

終助詞

終助詞は文末に現れ、話し手の態度を表したり、聞き手に働きかける役目があります。

か、の、のか	疑問
かな、かしら	疑問
な、なあ	感嘆
な	禁止
ね、ねえ、な	同意、確認
さ、わ	断定
よ、ぜ、ぞ	聞き手に情報を提供する

よね、わよね、かよ のように二つ以上連続して現れる場合もある。

1. 「か」

(1) 疑問文を作る

今、5時半です	現在五点半
今、5時半ですか	現在五点半嗎？

疑問詞と一緒に用いる場合でも通常「か」は必要です。

今、何時ですか	× 現在幾点嗎？
---------	----------

会話文では、「か」をつけなくても尻上がりのイントネーションで疑問文にすることはできますが、親しい間柄などでの使用になります。

今、何時？↗
君、百円持ってる？↗

(2) 自分自身に言い聞かせる

昼はラーメンでも食べるか↗

上記は、「昼はラーメンを食べるぞ」に対して、それほど強くない決心を表しています。

(3) 新事実などを改めて確認した場合

あ、もう5時か↗
おや、来年は君も大学を卒業ですか↗

(4) 普通体+「か」

通常の疑問文では「～ですか」「～ますか」となりますが、普通体に「か」を付けた疑問文は、親しい間柄や部下に対して使う場合に限られます。女性はあまり使いません。

明日、学校は休みか

高橋さんは、上海に行ったか

な形容詞や名詞の場合には「だ」をつけず、直接「か」を付けます。

君は元気だ → 君は元気か

これは中華料理だ → これは中華料理か

(5) 文の途中の「か」

次のような場合には、文の途中に出現することがあります。

システムが正常に動作しているか確認してください

来週旅行に行くか、行かないか、今日中に決定しよう

2. 「な」

(1) 同意、確認

明日君は学校へ行くんだな。 はい、行きます。

これで仕事は完了だな。 そうです、やっと終わりました。

(2) 感動

この時計は本当に正確だな、買って1か月経つけど1秒もくるっていないよ。

十和田湖の紅葉は実に素晴らしい、日本一だな。

(3) 禁止

動くな

騒ぐな

禁止の命令になります。日常の会話や文書では「動かないでください」「動いてはいけません」のようになります。禁止の「な」は、動詞の禁止形つまり動詞の活用語尾と考える方が普通です。

3. 「ね」

(1) 同意を求める場合

いい天気ですね。

そうですね。

今日は授業がありますね。 え、そうですか。
花子は小学生ですね。 いえ、中学生ですよ。

(2) 共感を促す

次の授業はいつですか。 ええと、月曜日ですね。

4. 「よ」

(1) 相手に注意を促す場合

その計算間違っていますよ
バスが来ますよ
花子は小学生ですね。 いえ、中学生ですよ。

(2) 話者の意思を主張する

今日はもう遅いから帰るよ
明日は休むよ

5. 「さ」

(1) 話者の判断を主張する

やればできるさ
頼めば貸してくれるさ

(2) 投げやりな調子

好きなようにやればいいさ
そう心配することは無いさ

(3) 疑問詞と共に用いて反論などの意思を示す

どうして言わなかったのさ
先輩の反対なんて何さ、私の方が正しいわよ

(4) 会話文の途中に挿入して相手の注意を促す

あのさ、高橋さんが来た時にさ、これ持ってきてくれたよ。
女性の場合には「さ」ではなく「ね」になることも多い。